外郎売の意訳・解釈

わたくしの親方と申しますのは、
お集まりの中にご存知の方もいらっしゃるとは思いますが、
江戸を出発して二十里上方（西）の、相州は小田原、
一しき町を過ぎて青物町をさらに西へ参りますと、
欄干橋虎屋藤右衛門という者が、
ただ今は剃髪しておりまして、円斉と名乗っております。
元町（元朝）より大晦日まで、お手に入るようにいたしましたこの薬は、
昔、珍の国より参りました外国人の、ういろうという方が、
わが日本の朝廷へ参りまして、帝（天皇）へ参内した時に、
この薬を深くしまい込んでおいて、用いる時には一粒ずつ、冠（帽子）の
隙間から取り出しておりました。
そこでその名を帝より『頂透香』と賜りました。
つまり、文字に表すと「頂」「透く」「香り」と書いて頂透香と申すのです。

現在ではこの薬も、大変世間で有名になりまして、あちこちに似看板が出
ております。まぁ、オダワラだの、灰俵だの炭俵だのさん俵だの…いろい
ろ申されておりますが、平仮名で「ういろう」と致ましたのは親方円斎だ
けでございます。
もしやお集まりの方の中に、熱海か塔ノ沢へ湯治にお出かけになるか、ま
たは、伊勢神宮ご参拝の折には決して店をお間違えになりませんように。
お上り（西へ行く）ならば右手に、お下り（東へ戻る）ならば左手に、
周囲から見ると八つの棟、正面から見て三つの棟の素晴らしい造りの建物
がございまして、破風には、菊に（桐の）董のご家紋を（朝廷より）使う
ことをお許し頂いて掲げております、由緒正しい（店の）薬でございます。

いや、先ほどより家名の自慢ばかり申し上げましても、ご存じない方には
「正身の胡椒の丸呑み」「白河夜船」（なんのことやらさっぱり中身がわか
らない、ということ）でございましょう。
それならば、（私が）一粒食べてみまして、その気味合い（効き目、感じ）
をお目にかけましょう。
まずこの薬を一粒舌の上に乗せまして、（飲み込んで）腹の中へ収めますと、
いや、なんともいえない（ほど素晴らしい）のは、胃、心臓、肺、肝臓の
調子が良くなります。ざらに、さわやかな香りが喉の方から参りまして、
口中はほのかに涼やかになって参ります。
魚・鳥・きのこ・麺などの喰い合わせ、その他、あらゆる病気がたちどこ
ろに良くなってくる様子は神（の仕業）のようでございます。

親方…香具師（やし）の元締め、薬売りの親分
相州小田原～…相模国（現在の神奈川県）小田原市。青物町という交差点が実在する。
欄干橋～…地名・屋号・名前
剃髪…出家のために頭を丸めること。在家出家＝隠居している
元町より～…元朝。元国の朝廷と元日の朝をかけた駄洒落。いつでも取り寄せますよ、の意
珍の国の～…外国の。元の国の陳宗敬という人、外郎は役職名
参内…宮中に参上すること
似看板…模造品、類似品、ニセモノ
オダワラの～…『ダワラ』にかけた駄洒落。似たような名前があちこちにあるということ。
熱海か塔ノ沢～…江戸庶民の代表的な遊び、物見遊山、観光
八方から～…屋根の三角が、正面と裏に3つずつ、横に1つずつの異国風の建物
破風…屋根と建物の境の板
菊に桐の董…菊は天皇家、桐の董も宮家ゆかりの家紋とされる
正身の～…粒のままの胡椒を丸呑みしても味が判りませんよね、という例え。言い回し。
白河～…眠ったまま名所を通り過ぎる、という話からの例え。
効能…ういろうは漢方の諸薬を入れたもので、薄荷の入った痰切薬（龍角散みたいなもの）だったとされる
魚鳥木の子～…禁忌の食べ合わせによる食あたりのこと

さて、この薬一番の素晴らしい効き目は、舌の回ることといったら、
銭ゴマが（かなわないと）はだしで逃げ出すほど。
ひょいと舌が回りだすと、矢でも盾でも、とても止められません。

そりゃそりゃ、そらそりゃ、回ってきたぞ。アワヤ咽。サタラナ舌に、
カ牙、サ歯音。ハマの二つは唇を加減して。
（…それをふまえて）口の開け閉めハキハキと。
あかさたなはまやらわ。おこそとのほもよろを。
一つへぎへぎに、へぎ干し（欠き餅）はじかみ（生姜）。
盆（に供える）豆、盆米、盆ごぼう。
摘タデ、摘み豆、摘み山椒。
書写算（書写山）の社僧正。
小米の生噛み、小米の生噛み、こん（この）小米のこ生噛み。
繻子、繻子、繻子、繻珍。
親も嘉兵衛、子も嘉兵衛。親かへい子かへい。子嘉兵衛親かへい。
古（い）栗の木のふる（い）切口。
雨合羽か番合羽。貴様の脚絆も皮脚絆。我等が脚絆も皮脚絆。しっかわ袴
の（しっ）綻びを、三針、針の長さほどにちょっと縫って、縫ったら（履
いて）ちょっと表に出てみろ。
河原撫子、野石竹。
のら如来のら如来。三のら如来に六のら如来。
一寸のお小仏に、お蹴つまずきなさるな。
細いどぶ川にどじょうがにょろり。
京の生鱈、奈良の生学鰹、ちょっと四、五貫目。
お茶を点てろ、茶を点てろ、さっと（すばやく）点てろ、茶を点てろ。
青竹（の）茶煎でお茶（を）さっと点てろ。
来るわ来るわ何が来る。高野の山のおこけら小僧。
狸百匹、箸百膳、天目百杯、棒八百本。
歩具、馬具、武具、馬具、三武具馬具。合わせて歩具馬具六武具馬具。
菊、栗、菊、栗、三菊栗。合わせて剥きこみ、六剥きごみ。
あのなげしにかけてある長（い）長刀は誰（のなげしの）長長刀か。
向こうのごまがらは荏（荏胡麻）の胡麻がらか真（胡麻の）ごまがらか。
あれこそほんの真（胡麻の）胡麻殻。
がらぴいがらぴい風車。
起き上がりこぼし、起きやがれ、小法師。昨夜もこぼして、またこぼした。
たあぷぽぽたあぷぽぽちりからちりからつったつぽ。
たぽたぽ一丁だこ、落たら煮て食ってやろう。

銭ゴマ…穴の開いた一文銭数枚に棒を通して作ったコマ
アワヤ咽…ア、ワ、ヤ行は中国音韻学の喉（コウ）音で始まる
サタラナ舌…同じく舌（ゼツ）音。以下、カ行は牙（ゲ）音、サ行は歯（シ）音、ハ（ファ）とマの音は唇（シン）音。
へぎ…三宝の上の部分。お供えを載せる。お盆のお供え（？）
書写算…書き取り算。書写山円教寺との駄洒落。社僧は神社にいる僧、僧正は位の高い僧。社僧正は造語。
小米…精米時に砕けたくず米
繻子…絹織物。緋繻子は紅染の繻子、模様を織ったのが繻珍
雨合羽か～…合羽、脚絆、しっかわ（尻皮？）袴。旅支度。
河原撫子…河原撫子も石竹もナデシコの一種。野の花。
京の生鱈～…内陸で食べられる美味しい海の魚、至極（美味）と四五貫目の駄洒落（？）
おこけら小僧…こけら＝木片のこと。木っ端小僧、小坊主。
天目…山盛りの飯。天目山棲雲寺。高野山にかけて。
菊栗…他の外郎売では「六菊栗」のあと、麦、ごみと続く事も。この場合は栗を剥いたゴミ。
なげし…長押。水平方向の柱。
ごまがら…ごま油の絞りかす。
こぼした…寝小便をした
たぽたぽ…鼓や太鼓の音、お囃子
一丁（町）だこ…蛸と大きな凧をかけて、「落ちたら」。一町は約１０９ｍ.

煮ても焼いても食う事が出来ない物と言えば、五徳、鉄きゅう、金熊童子に、石熊（童子）、石持、虎熊（童子）、虎きす（鱚）。
（酒呑童子の家来の）中でも東寺（当時）の羅生門には、茨木童子が、うで（茹で）栗、五合（金剛）つかんで、お蒸しゃる（おる）。
かの頼光（源頼光・よりみつ）のひざ元（から）去らず。
鮒（渡辺綱・つな）きんかん（坂田金時・きんとき）椎茸（占部季武・すえたけ）定めて（碓井貞光・さだみつ）。
後段のそば切り、そうめん、うどんか、愚鈍な小子發知（小新発意）。

小棚の（こ）下の、小桶に（こ）味噌が（こ）あるぞ。（こ）杓子（こ）持って、（こ）すくって、（こ）よこせ。
おっと合点だ、心得た（田）んぼの川崎、神奈川、
保土ヶ谷（旧名は程がや）、戸塚は走って行けばやいとをすりむく。
三里ばかりか、藤沢、平塚、大磯（大忙）がしや小磯の宿を、
七ツに起きて、早朝から早々と、相州小田原（の）頂透香を持って参りました。
隠すところがない（ほどすばらしい）、貴賤も様々の人々が集まった、花のお江戸の（と、同じようにすばらしい）花ういろう。
あれ、あの花を見てお心をお和ら（ぎなさい）ぎゃっと泣く、産まれたばかりの赤ん坊からハイハイする子供にしてみても、このういろうのご評判をご存じないとは申され（まい）まいまいつぶり角出せ棒出せ、ぼうぼうまゆに、臼、杵、すり鉢、ばちばちガラガラと、はめをはずして、本日おいでくださった全ての皆様に（この薬を）差し上げなくてはならない、売って差し上げなくてはならないと、気勢を張って（がんばって）、
東方世界の薬の元締め（である）薬師如来もご覧下さいませと、
さぁ（薬師如来とかけて）皆様に敬って（申し上げます）。
ういろうはいらっしゃいませぬか。

五徳鉄きゅう～…五徳は火鉢に使う脚、鉄きゅうは焼き網。金熊童子、石熊、虎熊は酒呑童子という鬼の手下。茨城童子も同様。石持は着物に家紋を入れるために空けてある白抜き部分。虎きすは魚で、食べられる。
かの頼光～…鬼である酒呑童子を退治した英雄。以下頼光の家臣の駄洒落。
後段…食後のデザート的な軽食
小子發知…小新発意。なりたての小坊主のこと。
たんぼの川…「転蓬（てんぼ）の皮」勢いだけの出たとこ勝負、の意。
やいと…膝の横のくぼみ、三里という疲れを取るツボがある。
七ツ…現在の午前4時頃
まいまいつぶり…かたつむり
東方世界…東方浄瑠璃光世界のこと。薬師如来を中心とする仏界。西方世界は極楽浄土。
ホホ敬いて…ホホは強調、歌舞伎の言い回し。

意訳・脚注　山上ナヲ